

○渥美半島俯瞰ロング	15:36	米とか食べさせてもらうけど、負けては ないと思うもんね、絶対に」
○農業用ハウスの数々		N 愛知県の南端、渥美半島の ほぼ全域に広がる田原市。(たはら) ここには、多くの農業用ハウスが 軒を連ねています。
○山間の農業用ハウス	15:52	N そして、長きにわたり変わらない 郷土の風景がある場所。
○暗転して明かりの灯る 農業用ハウス	15:59	N その風景がこちら。
○夜景ロング	16:03	N 明かりの灯ったハウスが並ぶ 電照菊作りの風景です。
○電照菊の明かりの様子	16:11	N 都会の夜景とは違う柔らかい 優しい光が夕闇に浮かび上がります。
○電照菊 鈴木さんのコナ ーカット	16:20	N こちらの鈴木平造さんもこの地で 輪菊を作り続ける一人。
○鈴木さんインタビュー	16:27	単純に飾って綺麗っていうのもありま す。緑と白の。まあ黄色でもいいと思うん ですけども。菊類全般に共通すること で、お客さんが長い時間喜んでもらえるとい うのは一番のウリで、丈夫で長持ちなん で人気がある」と
○輪菊の収穫をする鈴木 さんロング	16:49	N 田原市は、栽培面積、出荷量ともに 全国一の輪菊の産地。

<p>○白い菊を収穫する鈴木さん</p>	<p>16:57</p>	<p>N 特に清楚で気品のある白い輪菊は葬祭には欠かせない花として、一度に大量の本数が必要とされる花。</p>
<p>○鈴木さんからパンダウにして白い輪菊</p>	<p>17:09</p>	<p>N そのため、かねてからその安定的な生産は、大きな課題となっていました。</p>
<p>○収穫を終え、菊を運び出す鈴木さん</p>	<p>17:19</p>	<p>N そこで登場したが、菊の成長を制御するための電照栽培だったとのこと。</p>
<p>○鈴木さんインタビュー</p>	<p>17:27</p>	<p>菊っていうのは、基本的に日が短くなる</p>
		<p>と花芽をつけて花が咲くようになるので、切って水上げするところを見ると9</p>
		<p>0:30 という企画になっちゃってるんで、</p>
		<p>夜明かりをつけてやるとお日様が長いと</p>
		<p>勘違いして花芽をつこうとしない成長、栄</p>
		<p>養成長になるんでそういう理由で電気つ</p>
		<p>けて電照してます」</p>
<p>○菊を切る鈴木さん</p>	<p>17:56</p>	<p>N 電照することで、丈を長くし、</p>
<p>○トラックに積み込む</p>		<p>開花時期を遅らせ、出荷時期を調整することで、</p>
<p>○荷台に並んだ白い菊</p>		<p>菊は、一年中、店先に並べられるようになったのです。</p>
<p>○マム。ポート 外観</p>	<p>18:11</p>	<p>N 収穫された輪菊が集められるのが</p>
<p>○やってくる鈴木さん</p>		<p>輪菊専門の共同選花施設、</p>
<p>○菊を降ろす</p>		<p>マム。ポート。</p>

<p>○マム。ポート内部ロング ○選別作業</p>	<p>18:27</p>	<p>N 15台の選花機と、 巨大な低温保存庫を持つことで、 選別 出荷作業が行われ、 全国に向け出荷されます。</p>
<p>○鈴木さんインタビュー</p>	<p>18:42</p>	<p>やっぱり風物詩で、暮れに正月に使う 花としてとても重宝されてたんで、みん な同じ時期に付けて、同じ時期に消して、 というような格好で来てたんで、昔は一 面綺麗だったんで、それは素晴らしかつ たですけど。ホテルなんかで夜のナイトツ アーを企画して、ジンと付けて、歓声が起 きるというかワーっと。ホテルのお客さ んなんでいろんなお客さんがいて、みんな が一律に綺麗だなと、で花の良さという か花の綺麗さ、それが頭に残ってもらえ れば菊だけじゃなくて、他の花もそうい う感じでやっていけば、花を買おうかな となっていくと思います。」</p>
<p>○菊の水やり作業</p>	<p>19:42</p>	<p>N 綺麗な花を作り続けること。 そして、 そうした花のファンを作る活動も 同時に行うこと。</p>
<p>○鈴木さんインタビュー</p>	<p>20:09</p>	<p>N 輪菊と共に生きる鈴木さんの目には、 より多くの電照菊の明かりが灯った 郷土の昔の風景をもう一度見たい。 そんな想いが感じられます。</p> <p>花に触れないことには花を買おうとい う（ことにならない）言葉だけじゃやっぱ</p>

<p>○ペコロスのタネを植える 近藤さん</p>	<p>20:34</p>	<p>N リ。。。見るていうのがやっぱり、行動したことが次に帰ってくるという。花を持って歩いてもらうのもいいですし、電車間にずっと花を持っていたらみんな見ますよね。そういうことの繰り返しなのかな？と思いつながら」</p> <p>N 知多半島の北西部、知多市。(ちたし)「」に新たに農業に チャレンジしている女性がいると聞き、尋ねてみました。</p>
<p>○ペコロス 近藤さんコーナーカット</p>	<p>20:46</p>	<p>N こちらの近藤由佳さんが作っているのは、ペコロス。</p>
<p>○近藤さんインタビュー</p>	<p>20:53</p>	<p>直径が3cmから4cmくらいの玉ねぎの仲間です。大正時代に外国船の船員さんがそのタネを持ってきて、「ここに栽培の技術を根付かせていった」という風に聞いています。」</p>
<p>○ペコロス商品カット</p>	<p>21:08</p>	<p>N タネを蒔き、芽吹いたペコロスの苗。定植と呼ばれる作業が行われていました。</p>
<p>○定植を行う近藤さん</p>	<p>21:22</p>	<p>N これは、育った苗を抜き、別の畑に一本一本およそ5cmの等間隔に植えていく作業。</p>
<p>○作業する近藤さん</p>	<p>21:38</p>	<p>N 一人黙々と作業を進める近藤さん。どうして農業の世界に飛び込んだのでしょうか？</p>